

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		守田 昌哉	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.25	大学院授業および臨海実習において内容の濃い、学生の満足度の高い講義および実習になるように心がける。学生の求める研究テーマを丁寧な指導で自立的に行えるようにする。		0.25	実習及び講義に関して、熟考し行なった。学生からは好評であった。また、所属学生の執筆した論文が受理された。			
研究	0.55	専門分野に関する論文を二本出版する。大型予算獲得のために共同研究を積極的に行う。		0.55	専門分野に関する論文を2本掲載し、査読中の論文もかつ2本あり良好である。今後はhigh impactな研究に注力していく予定である。			
社会 貢献	0.10	市民公開講座の取りまとめ、学会の委員を行う。依頼があれば、雑誌のレフリー、エディターも行う。		0.10	市民公開講座を執り行い、学会の委員会、交流会なども開催した。雑誌のレフリーも多く行なった。			
管理 運営	0.10	委員会に出席し大学の運営に関与する。また、施設の維持管理に努め、故障機械の修理や維持などには特に気を配る。		0.10	大学の運営に深く関わり、施設の維持管理などに携わった。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 秀之	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	授業を通して、熱生研や瀬底研究施設の教育内容をPRする。公開臨海実習を始めとした臨海実験所としての実習プログラムなどに積極的に貢献する。海外から留学生を受け入れ、研究テーマの設定や指導を行い、あわせて生活の支援を行う。			0.25	修士課程「サンゴ礁生物相互作用論」および博士課程「サンゴの病気特論」の講義を行った。公開臨海実習(東大海洋学際教育プログラムとの共催「沖縄で学ぶサンゴ礁学:サンゴ礁生物、地形・地質、および環境保全に関する実習」)を実施した。国際合同野外実習を担当した。学内の学生および施設を訪れた共同研究者の学生等と懇談し、進路等に関する話を聞いたり、アドバイスを行った。		
研究	0.40	科学研究費(基盤B, 研究分担者, 最終年度)の研究を計画的に実施し、成果を着実に仕上げる。また、その他の競争的内外部資金の獲得にも努める。複数の論文を投稿(掲載)する。			0.40	科研費(基盤B, 分担)の研究を実施した。国際誌2報, 国内誌1報(英文), 書籍(印刷中, 分担)を発表した。日本サンゴ礁学会, 日本動物学会他で, サンゴの病気や白化現象に関する6件の口頭発表を行った。		
社会 貢献	0.10	熱帯生物圏研究センター職員として、および瀬底研究施設職員として様々な社会貢献活動に貢献する。地域貢献にも積極的に取り組む。			0.10	県立名護高校や県外の高校の研修を行った。また修学旅行生, 国内外からの研究生等に対するレクチャーと施設案内もできる範囲内で実施した。平成29年度九州地区総合技術研究会で特別講演を行った。		
管理 運営	0.20	瀬底研究施設の管理運営に施設長(4年目)としてより効率的に取り組む。平行して施設教職員との連携を深める。支出の削減や省エネに努め、利用実績等の把握と施設のPRに勤める。			0.25	瀬底研究施設の管理運営に取り組んできた(平成30年1月まで)。施設職員のサポートもあり、順調にこなすことができ、また連携も深まった。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 一彦	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	研究室に所属している、理工学研究科博士後期課程および博士前期課程の大学院生計4人について、学位取得に向けての指導を行う。大学院理工学研究科の授業を担当し、研究室内外の大学院生の教育を行う。			0.15	研究室に所属している、理工学研究科博士後期課程および博士前期課程の大学院生計4人について、学位取得に向けた指導を行い、博士後期課程の大学院生1人については、ロンドンで開催されたヨーロッパサンゴ礁学会で研究成果を発表させた。現在発表内容を論文化するよう指導している。大学院理工学研究科の授業を3科目担当し、研究室内外の大学院生の教育を行った。		
研究	0.40	サンゴ礁の生態及び保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験により展開し、年度内に5編の学術論文を査読ありの雑誌に出版または受理されることを目指し、研究を行う。学内外の研究者と研究組織を構成し、サンゴ保全に関する科学研究費基盤Aを代表者として申請する。			0.40	サンゴ礁の生態及び保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験により展開し、6編の論文を査読ありの雑誌に出版した。学内外の研究者と研究組織を構成し、サンゴ保全に関する科学研究費基盤A(一般)に、代表者として申請した。		
社会 貢献	0.05	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会などを引き受ける。国や県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、可能な範囲で引き受ける。			0.05	サンゴ礁の保全に関する、沖縄県の二つ検討委員会の委員となり、うち一つでは議長を務めた。		
管理 運営	0.40	熱帯生物圏研究センター長として、センターの管理運営を統括し、センター内での研究教育環境の整備を行う。センターの共同利用・共同研究拠点としての第3期中間評価に向けた組織改革を行う。また、瀬底研究施設の運営にも積極的に参加する。			0.40	熱帯生物圏研究センター長として、センターの管理運営を統括し、センター内での研究教育環境の整備を行った。センターの共同利用・共同研究拠点としての第3期中間評価に向けて、共同利用・共同研究を再編し、大型外部資金獲得に結び付けた。瀬底研究施設の運営に、積極的に参加した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡辺 信	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	西表研究施設における集中講義及び実習を実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促す。(1)サイエンスの中心より広がるユニバースにおける熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。対象実習:大学院×3・学部×3・高等学校×3・中学校×1			0.30	西表研究施設における集中講義及び実習を実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促すことができた。(1)サイエンスの中心より広がるユニバース(教育)の中における熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。対象実習:大学院×2・学部×3・高等学校×3・中学校×1 評点0.3		
研究	0.50	(1)科研費挑戦的萌芽研究の円滑な推進。(2)IF付き国際学術誌にファースト若しくはコレスポンディングオーサーとして研究論文を1本執筆する。(3)競争的外部資金の追加獲得。(4)今年度実施する共同利用研究並びに海外研究機関との共同研究の円滑な推進。			0.50	(1)挑戦的萌芽研究、分担科学研究への協力。(2)IF付き国際学術誌に共著で1本投稿、掲載されたが、第一著者ではなかった。(3)科研基盤Bを申請中。(4)京都大学、中部大学と、新たな研究を展開。(5)日系企業とタイの mangrove 再生でJICA申請中。(6)センタープロジェクトに採択 評点0.4		
社会 貢献	0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁及び環境省関連の委託委員。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応。			0.10	世界遺産登録の委員として各種コンサルタントを実施。竹富町への教育を中心とした協力。林野庁及び環境省関連の委託委員を務めた。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応を行った。 評点0.1		
管理 運営	0.10	施設運営の円滑な実施への協力。担当管理範囲の設備更新。			0.10	施設運営の円滑な実施への協力及び担当管理範囲の設備更新に務めた。 評点0.1		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		徳田 岳	所 属		熱帯生物圏研究センター 分子生命科学研究施設	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	「生命科学入門」を通じて、共通教育に参加する。また、理学部および理工学研究科専門科目の講義・実習を通じて理学部学部生ならびに理工学研究科大学院生の教育にも携わるとともに、大学院生の教育研究指導を行う。			0.25	「生命科学入門」を通じて、共通教育に携わった。また、理学部専門科目の講義および実習を担当し、理学部学生の学部教育にも携わった。さらに大学院理工学研究科前期課程の講義を開講するとともに、大学院生の研究指導を通じて大学院教育に携わった。		
研究	0.30	学内外の共同研究者と共に最低1報の研究論文の採択を目指す。競争的研究資金など外部資金の獲得を目指し、研究環境の整備・充実を図る。			0.30	平成29年度は査読付き原著論文1報を発表し、査読付き日本語総説1報およびその他日本語報文2報を発表した。また、外部資金獲得に関しては科研費基盤研究Aおよび特別研究員奨励費を新規で獲得した他、挑戦的萌芽研究を継続で実施した。		
社会貢献	0.15	ホームページや市民公開展示会を通じて、地域への情報発信を行う。学会役員等としての活動を行い、地域社会への大学や研究機関における研究成果の還元に貢献する。			0.15	熱生研の公式HPの維持管理を行うと共に広報委員として、熱生研の活動を地域社会に情報発信した。また、市民公開展示会でポスター展示を行い、地域への情報発信を行った。さらに、日本動物学会九州支部委員として活動し、3学会例会を開催した。		
管理運営	0.30	分生研レイアウト委員や熱生研広報委員として積極的に管理運営に努める。また、全学の化学物質管理専門部会のメンバーとして化学物質管理体制の維持に向けて活動する。さらに、熱生研の遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者および全学安全委員会委員として、適切な組換え生物等の管理を実施する。			0.30	分生研のレイアウト・施設公開実行委員、副施設長、熱生研広報委員長として活動した。また、全学の化学物質管理専門部会の委員や遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として化学物質や組換え生物の適切な管理に努めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		岩崎 公典	所 属		熱帯生物圏研究センター
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	農学部講義「栄養学」を半期担当。共通教育科目「生命科学入門」「生物資源利用とサイエンス」の一コマを担当。学生の指導に関しては、留学生の比率が大きくなっていることから、英語による教育、指導を心がける。特に博士課程の学生に対しては、論文投稿に係る指導も行う。		0.40	学部担当講義「栄養学」を半期、「生命科学入門」、「生命科学(資源科2年次対象)」、大学院担当科目「生物資源利用とサイエンス」の講義一コマずつを担当した。博士課程の学生について、副指導教員として指導を行った。
研究	0.40	研究成果を学術誌に投稿する。新たに平成29年度「沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業」の獲得を目指す(応募済み)。前年度明らかにした相乗効果による抗肥満作用での新たな外部資金獲得を目指す。		0.40	第一著者論文と、第二著者論文の各一報が国際誌に受理された。応募した予算申請は採択され、継続の予算と合わせて二つの外部資金を獲得し、研究を行った。
社会 貢献	0.10	企業共同研究を通して、専門技術を要する動物実験による機能性評価や活性測定などを行い、企業製品の付加価値の向上を技術面からサポートする。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域に公開する。県の平成29年度「ライフサイエンス研究機能高度化事業」の委員を務める。		0.10	当該施設の施設公開と市民公開講座に参加し、広報活動を行った。第71回日本栄養食糧学会沖縄大会実行委員(会計)として学会開催をサポートした。県のライフサイエンス事業の外部評価委員(2件)として活動した。
管理 運営	0.10	全学情報システム技術専門委員会委員を務める。施設の防火防災管理責任者を務める。センター共通分析機器(主に質量分析装置、共焦点レーザー顕微鏡)の運用責任者として活動する。熱生研年報作成委員を務める。		0.10	全学情報システム運用委員会技術責任者および技術担当者、共同研究施設等安全衛生委員会委員として活動する。施設の防火防災管理責任者として活動した。センター共通分析機器(主に質量分析装置、共焦点レーザー顕微鏡)の運用責任者として活動した。農学部に導入された質量分析装置の運用責任者として活動した。
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		屋 宏典	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	学位取得に必要な論文作成を指導し、大学院教育に寄与する。博士学生の進路について、早い時期に学生と協議し円滑な進路決定ができるよう努める。			0.10	一名の修士学生に学位を取得させた。外国人博士学生一名の学位取得のための論文指導を行い、帰国後の処遇改善に貢献した。目標は達成したと判断している。		
研究	0.30	大学院博士課程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、関連企業との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	大学院博士課程の学生、外国人特別研究員等との連名で7編の論文を国際誌に発表した。応用研究を目指した外部資金3件を獲得した。概ね目標は達成したと判断している。		
社会貢献	0.20	県或いは関連外郭団が主催する委員会の委員を努める。また、資源利用に関する研究会(南方資源利用技術研究会)の運営に関わり、企業－大学連携の促進に貢献する。日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に貢献する。			0.20	県或いは関連外郭団が主催する3つの委員会の委員を努めた。また、資源利用に関する研究会(南方資源利用技術研究会)の会長として運営に関わった。目標は達成したと判断している。		
管理運営	0.40	産学官連携推進担当副学長として大学運営及び熱帯生物圏研究センター運営委員会委員としてセンター運営に貢献する。			0.40	産学官連携推進担当副学長として大学運営関わった。目標は達成したと判断している。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新里 尚也	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	共通科目「生命科学入門」、ならびに工学部で担当するの「環境衛生工学」について、講義内容の見直しを行い、図表等を多様したわかりやすい講義を実施する。講義のアンケートで理解度を評価し、全く理解できなかったとする学生が極力でない講義を目指す。担当する学生の進路決定に積極的に関わり、本人の希望と適正に合った就職、進学先へ進めるように、卒業研究のスケジュール管理も含めて努力する。			0.20	「生命科学入門」に関しては教科書の担当範囲も変更となったため、内容をリニューアルし、図表をわかりやすいものとした。「環境衛生工学」は例年とほぼ同様な内容であったが、生命科学への理解を助けるように講義内容の順番を入れ替える等の変更を行った。卒業研究で受け入れた2名の学生については、1名は本人の以前からの希望で自衛隊への入隊が決まり、もう1名は卒業後に進路を検討することとなった。		
研究	0.60	自らが執筆する共著論文2報以上の投稿を目指す。また研究資金面では、積極的に競争的資金への応募や共同研究に参画し、1件以上の外部資金獲得を目指す。			0.60	自らが執筆する論文の投稿はなかったものの、共著論文を3報投稿中である。外部資金は、基盤研究(B)、沖縄県の研究助成、AMEDの研究プロジェクトの計3件を獲得した。		
社会 貢献	0.10	研究事業やインキュベーション施設の運営・推進委員として沖縄県の科学技術振興に貢献する。その他、インターンシップの受け入れ等を通じた地域社会への貢献も積極的に行う。			0.10	沖縄県のライフサイエンス研究センター、健康バイオテクノロジー研究開発センターの運営委員として、それぞれの施設運営に貢献した。今年度のインターンシップは希望者がなかった。		
管理 運営	0.10	発明審査委員や地域貢献推進委員として大学運営に貢献するとともに、時空間ゲノミクスプロジェクトにおいて先端シーケンサー運用の支援も行う。また、市民公開シンポジウム・展示会委員等の仕事を通してセンターの組織運営に積極的に参加する。			0.10	発明審査委員や地域貢献推進委員として大学運営に貢献した。また、時空間ゲノミクスプロジェクトにおいて先端シーケンサー運用の支援を行った。市民公開展示会の世話人として、沖縄県庁ロビーでの展示会開催を行った。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山平 寿智	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.25	博士前期過程(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)の講義をそれぞれ開講する。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行う。特に、主指導をしている学生2名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行う。		0.25	博士前期過程の講義(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)を開講した。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行った。主指導の博士前期課程の学生3名および博士後期課程の学生1名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行った。			
研究	0.40	科研費による研究を実施し、学術誌等での論文3編を目標に成果発表を行う。これと並行して、遺伝研、慶応大、麻布大、総研大、福女大、大医大、岐阜大、新潟大、基生研、および名古屋市東山動物園との共同研究を継続する。また、神戸大との共同研究を新たに開始する。		0.40	科研費による研究を実施し、国際誌2編および学会発表8件の成果発表を行った。遺伝研、東山動物園、福岡女子大、総研大、慶応大、麻布大、大阪医大、基生研、新潟大、および岐阜大との共同研究を継続すると共に、神戸大、東大大気海洋研との共同研究を新たに開始した。日本生態学会九州地区委員の任も遂行した。			
社会 貢献	0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れる。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスを行う。		0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れた。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスも行った。			
管理 運営	0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として部局の管理運営に携わる。また、熱生研全学委員として熱生研運営委員、ならびにハラスメント防止対策委員の任を遂行する。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行する。		0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として施設長懇談会に参加し、部局の管理運営に携わった。また、熱生研全学委員として、熱生研運営委員、ならびにハラスメント防止対策委員の任を遂行した。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内貴 章世	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・西表研究施設において担当する予定の集中講義・実習において、生物多様性の理解を効果的に促す指導を行う。 ・理学部・理工学研究科の学生に対する教育および大学院進学を促すためのリクルート活動に積極的に関わる。” 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・学内担当の2科目(学部・大学院各1科目)に関しては独自の資料を作成・配布し、昨年度同様効果的な講義ができたと考えている。 ・学外の野外実習を2大学各1科目担当した。相手大学教員と協力して効果的な講義ができたと考えている。 ・理学部・理工学研究科の学生に関わらず、西表研究施設に興味のある学生を対象として、大学本部、西表研究施設において説明会を行うことができた。 		
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・西表島の植物相研究プロジェクトを推進する。 ・科学研究費補助金による研究を推進する。 ・国内外の研究者との共同研究を行う。 ・学会、学術誌において研究成果を発表する。 ・科研費等の外部資金獲得に取り組む。 			0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・西表島の植物相研究では、学内の「研究プロジェクト推進経費(戦略プロジェクト研究)」に採択され、プロジェクトを本格的に始動・推進することができた。 ・科研費では基盤C(分担)が採択され、植物の系統分類学的研究を進めることができた。 ・学振の論博取得支援事業に採択され、外国人研究者を指導することができた。 ・査読付き国際誌に研究論文8編が掲載された。生態学会、植物分類学会にて研究発表を行った。 		
社会 貢献	0.15	自治体、官公庁、一般財団等と連携した西表島の植物相調査、外来種対策、希少種保護の取り組みを進める。			0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・一般財団法人の研究者と西表島の植物相研究の社会還元に関する協力を進めた。 ・国立研究機関所員と西表島の希少植物保護に関する取り組みを進めた。 		
管理 運営	0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たす。			0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たすことができた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		新川 武	所 属		熱帯生物圏研究センター	
職 名				職 名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成29年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.20	<p>大学院教育:医学研究科博士課程(医学専攻)亜熱帯医学プロジェクトの亜熱帯医学概論を担当する。同じく医学研究科博士課程(医学専攻)2~3年次を対象とした健康長寿医学プロジェクト/亜熱帯医学プロジェクト/社会医学プロジェクト/再生・再建医学プロジェクト/臨床研究教育管理学プロジェクトの感染免疫制御学特論を担当する。さらに、医学研究科博士課程(医学専攻)1~4年次を対象とした感染制御医学専攻(感染制御医学特別コース)の感染免疫制御学特論・感染免疫制御学演習・感染免疫制御学実習を担当する。医学研究科博士課程の大学院生を対象とした特別演習(研究室ローテーション)に積極的に参加する。医学研究科博士課程大学院生の副指導教員を担当する。</p> <p>学部教育:医学部M2を対象とした免疫学講義の一部(ワクチンと感染症対策)を担当する。また、共通教育科目(生命科学入門 エビジュニクス)を担当する。その他、原著論文・総説購読会等(Vaccinology Journal Club/ワクチン勉強会)を実施する。医学部M3を対象とした基礎医学研究プログラムを通じて質の高い研究活動に従事させると同時に、科学的方法論とは何かということを具体的な実験テーマを題材として教示することに努める。また、外部資金で雇用している技術補佐員や民間等共同研究員に対し適切な指導・支援を実施する。</p> <p>長崎大学熱帯医学研究所ならびに帯広畜産大学原虫病研究センターの非常勤講師として、外国人研究生・研修者向けに感染症研究の講義を担当する。</p>		0.20	今年度初頭に設定した目標は全て達成した。すなわち、大学院教育、学部教育ならびに本学以外での特に外国人研究者を対象とした教育活動に従事した。	
研究	0.50	<p>感染症研究を推進するなかで、特に腸管出血性大腸菌(O157等)に対するトキソイドワクチン開発や家畜のウイルス感染症に対するリコンビナントワクチン開発を推進する。また、伴侶動物の寄生原虫に対する新しい診断薬開発を進める。さらに、ハブ毒に対する診断用モノクロナル抗体ならびに治療用モノクロナル抗体の開発に着手する。そして、これらの研究開発の成果を原著論文、学会発表、知的財産権獲得等へ繋げる。さらに、科学研究補助金(基盤研究(C))、平成29年度研究プロジェクト推進経費、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業等、多くの競争的外部資金を獲得するよう努める。</p>		0.50	今年度計画した研究項目は全て良好な進捗状況にある。特に感染症ワクチン開発ならびに抗ハブ毒素プロジェクトは滞りなく進んでおり、ワクチン1品目については早ければ今年度中に特許出願可能な状況にある。さらに、別のワクチン1品目については、共同研究相手の製薬企業との実用化段階へ進むことができ、6年後を目途に医薬品として上市する目標を設定することができた。	
社会貢献	0.25	<p>研究内容を学会、セミナー、市民公開講座、各種HP、熱帯生物圏研究センター年報、分子生命科学施設施設公開等を利用して幅広く宣伝することで、地域社会へ科学技術の重要性を伝える活動に積極的に参加する。地域連携推進機構知的財産系担当教授として、一般財団法人沖縄発明協会等の知的財産管理啓発活動や人材教育活動に参加する。さらに、文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として、科学技術の動向に対する意見書等を提出することで、我が国の科学技術の進展に寄与する努力をする。日本寄生虫学会の評議委員として働く。必要(依頼)に応じて文部科学省以外(農林水産省等)の省庁の研究審査員を務める。</p> <p>2016年9月30日付けで株式会社ジェクタス・イノベーターズの代表取締役役に就任したことを受け、弊社の琉球大学発ベンチャー認定(平成29年4月1日施行)を目指すと同時に本学の産学連携活動を通じて大学研究シーズを実用化につなげるよう努める。特に沖縄県から史上初のワクチン(医薬品)を輩出することで、本学の研究開発力の高さを一般社会へアピールすることに努める。</p>		0.25	今年度初頭に設定した目標は全て達成した。	
管理運営	0.05	<p>熱帯生物圏研究センター分子生命科学施設設備のグループリーダー(感染免疫制御学分野)の役割を担う。また、熱帯生物圏研究センター教授会、大学院医学研究科教授会、大学院医学研究科学務委員会、地域連携推進機構運営委員会、地域連携推進機構知的財産系担当教授、発明審査委員会委員長等の役割を担う。</p>		0.05	熱生研や分生研の管理運営だけでなく、医学研究科や地域連携推進機構の運営に参加し、今年度初頭に設定した目標は全て達成した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松崎 吾朗	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施する。医学部の微生物学・免疫学の講義および医科学研究を分担することにより、感染症制御に関する教育を行う。学外においては、非常勤講師として講義を行う。共通教育では、「生命科学入門」の企画を担当し、また講義分担することにより、教養の生命科学教育に参加する。			0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施した。医学部の微生物学・免疫学の講義および医科学研究を分担することにより、感染症制御に関する教育を行った。学外においては、非常勤講師として島根大学医学部医学科、および佐賀大学大学院医学研究科の講義を行った。共通教育では、「生命科学入門」の企画を担当し、また講義分担することにより、教養の生命科学教育に参加した。		
研究	0.50	自らの研究テーマである感染症に関する研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し一流専門誌への採択を目指す。また、学会における研究成果の発表と討論により、研究者間の情報交換を行い、それによる研究の改善を目指す。研究経費については、科学研究費補助金一般B以上の獲得を目指すし、さらに企業との共同研究経費の獲得を目指す。			0.50	自らの研究テーマである感染症に関する研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し、現在Revisedの状態である。また、本研究を基に査読付き英文雑誌に総説を投稿し、掲載された。学会では、日本比較免疫学会における研究成果の発表と討論をおこない、また日本生体防御学会には会長として、日本免疫学会と日本細菌学会では評議員として参加し、討論を行った。日本細菌学会九州地方会は、会長として話で開催した。これらの活動により、研究者間の情報交換を行い、それによる研究の改善をおこなった。研究経費については、科学研究費補助金一般Bを申請し、さらに2企業との共同研究経費を獲得した。		
社会 貢献	0.10	日本生体防御学会会長として、学会の運営の中心となるとともに、他学会の評議員として学会運営に参加する。また、学外の遺伝子組換え生物等使用安全委員会および病原体取扱安全委員会に参加し、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献する。			0.10	日本生体防御学会会長として、学会の運営の中心となるとともに、日本免疫学会、日本細菌学会の評議員として学会運営に参加した。また、OISTのBiosafety委員会委員長として、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献した。沖縄県立向陽高校において特別講義を行い、高校生の生命科学の学習にも貢献した。		
管理 運営	0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献する。また、熱帯生物圏研究センターの運営委員ならびに分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営に積極的に参加する。			0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献した。また、熱帯生物圏研究センターの運営委員ならびに分子生命科学研究所施設長として、センターの管理運営に積極的に参加した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		玉城 志博		所 属		熱帯生物圏研究センター		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.15	学部共通教育科目「生命科学入門」を担当する。医学部医学科4年次対象の基礎研究で配属される実習生に対して、現場担当者としてワクチン研究現場を経験させる。				0.15	学部共通教育科目「生命科学入門」の内1章を担当し、約20名の学生に生物の発生の仕組みや再生医療について講義した。医学部医学科4年次対象の基礎研究で配属される実習生(4名)を、3か月間ワクチン研究に関する実験等を指導し、研究現場を経験させた。また、昨年度配属された学生はポスター発表会において優秀賞を受賞した(今年度4月)。				
研究	0.70	ワクチン及びアジュバント開発を推進する。ワクチン開発において、志賀毒素に対するトキソイドワクチンや日本脳炎ウイルス、豚パルボウイルス、豚ロタウイルスに対する大腸菌又はカイコガ発現組換えタンパク質性ワクチンの開発を推進する。アジュバント開発においては、農学部及び教育学部の先生方が所有している動植物及び微生物ライブラリーからアジュバント候補化合物の探索をする。また、アジュバント候補化合物を見出した際には、その免疫学的作用機序を解明する。加えて、犬や馬の寄生虫に対するイムノクロマトグラフィー法を利用した診断薬の開発を進める。また、モノクロナル抗体を用いたハブ毒素に対する抗毒素開発を進める。これら研究成果を原著論文およびワクチン学会等で発表する。公益財団法人沖縄科学技術センターが公募する沖縄科学技術イノベーション構築事業やその他の競争的外部資金を獲得できるように努める。				0.70	ワクチンおよびアジュバント開発を推進した。ワクチン開発においては、志賀毒素に対するトキソイドワクチンや、豚のウイルス感染症(4種類)に対する大腸菌又はカイコガ発現組換えタンパク質性ワクチンの生化学的および生体防御機能を解析した。アジュバント開発においては、農学部の先生が所有している微生物ライブラリーからアジュバント候補化合物の探索した。イムノクロマトグラフィー法を利用した診断薬開発では、犬の寄生虫感染症の試作品を作製し、感染犬をと非感染犬を区別可能であることを確認できたことから、製造・販売を担当する企業と話を進めている。馬の寄生虫感染症については、診断薬作製に必須な基礎的な基礎データを収集した。昨年度応募した科学研究補助金 若手研究(B)(研究課題名:志賀毒素に対するB鎖標的型組換えトキソイドワクチンの分子構築)が採択された。また、公益財団法人沖縄科学技術センターが公募する沖縄科学技術イノベーション構築事業(研究課題名:蛇毒抗毒素治療薬の開発)に採択され、モノクロナル抗体を用いたハブ毒素に対する抗毒素開発を進めている。				
社会貢献	0.10	熱帯生物圏研究センター市民公開講座・展示や分子生命科学研究所施設公開等で研究内容を宣伝し、地域社会へ科学技術の重要性をアピールする。株式会社ジェクタス・イノベーターズの取締役として産学連携活動に従事する。開邦高校インターンシップの高校生に研究現場の体験をさせ、科学により興味を持ってもらう。				0.10	市民公開講座・展示等では研究内容を宣伝し、地域社会へ科学技術の重要性をアピールした。株式会社ジェクタス・イノベーターズの取締役として、産学連携活動に従事した。また、当社は琉球大学発ベンチャー企業として認定された。				
管理運営	0.05	熱帯生物圏研究センター市民公開シンポジウム及び講座・展示の委員を担当しており、センターを地域社会にアピールする。また分子生命科学研究所にあるレイアウト委員も担当しており、施設の運営および管理等を円滑に進める。				0.05	市民公開シンポジウムおよび講座・展示会の委員では、熱帯生物圏研究センターを地域社会にアピールすることに努めた。また分子生命科学研究所のレイアウト委員では、施設の運営および管理等を円滑に進められるように努めた。あと、平成30年度共同利用・共同研究の選考委員を担当した。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		高江洲 義一		所 属	熱帯生物圏研究センター		職 名	准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目の講義を担当する。 ・医学研究科の協力講座として、医学部医学科の講義・実習を担当する。 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・共通教育科目『生命科学入門』の講義(1コマ)を担当した。 ・医学部M2『細菌学』の講義(1コマ)、実習(9コマ)を担当した。 ・医学部M3『医科学研究』で医学科学生2名を直接指導した(3ヶ月)。 			
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者となっている科研費(基盤C、H27-29)の研究を継続する。 ・競争的外部資金の獲得に取り組む。 ・研究成果を学会または論文で発表する。 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度科研費(基盤C、新規)に応募した。 ・民間財団研究助成金(2件)に応募した。 ・AMED研究費(シーズA)に応募した。 ・第28回生体防御学会(相模原市)にて、研究成果を口頭発表した。 ・第1回OIST-琉大合同シンポジウムにて、研究成果をポスター発表した。 ・Biotarget誌にInvited Editorial(1件)を執筆した。 			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学会、研究会活動に参加する。 ・機会があれば原著論文の査読を引き受ける。 ・県内の中高校生向け人材育成事業等に協力する。 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・第70回日本細菌学会九州支部総会(那覇市、2日間)の開催・運営を事務局長として支援した。 ・原著論文の査読を行った(1件、Microbiology and Immunology誌) ・沖縄県委託事業『H29年度子供科学人材育成事業 サイエンス・リーダー育成講座』において、責任講師として『遺伝子科学コース』を企画・実施した(9名、6日間)。 ・沖縄県委託事業『サイエンス・リーダー育成講座体験会 in 伊江島』において、責任講師として『DNAをしらべよう!』を企画・実施した(来場者約130名、5時間)。 ・沖縄工業高等専門学校のインターンシップ学生(1名)を直接指導した(5日間)。 ・開邦高校のインターンシップ学生(3名)を直接指導した(3日間)。 			
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・入試関連業務に協力する。 ・各種の学内委員会活動に参画する。 			0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員(全学、~H31年3月) ・附属図書館学術情報基盤資料選定委員(全学、~H31年3月) ・市民公開講座・展示委員(熱生研、~H30年9月) ・レイアウト委員(分生研) ・H30年度共通教育科目『生命科学入門』カリキュラム検討PT(分生研) 			
計	1.00				1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高相 徳志郎	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育に参加するが、体験学習を重要視する。 ・共通教育科目(1講義)を担当する。 ・高校から希望があれば出前授業を担当する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育に参加し、体験学習を重要視した。 ・共通教育科目(1講義)を担当した。 ・高校から出前授業の希望が無かった。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善、ヤマネコ事故防止に用いる地被植物の繁殖法、栽培法の確立研究を行う。 ・ウミクサ類がウミガメの食害にあっており、この実態調査を行う。 ・マングローブ植物の授粉機構の論文を作成する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善、ヤマネコ事故防止に用いる地被植物の繁殖法、栽培法の確立研究を行った。 ・ウミクサ類がウミガメの食害にあっており、この実態調査を一部行った。 ・マングローブ植物の授粉機構の論文を作成できなかった。 			
社会貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善に地被植物が有効であること啓蒙し、実践する。 ・マングローブ植物の本の和訳を予定している。 ・植物の形態について地域社会を対象とした授業をする。 		0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善に地被植物が有効であること啓蒙し、実践した。 ・マングローブ植物の本の和訳がようやく軌道に乗り始めた。 ・植物の形態について地域社会を対象とした授業をした。 			
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱生研の組織運営にあずかる。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱生研の組織運営に与った。 			
	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の景観改善を植栽によって進める。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の景観改善を植栽によって進めた。 			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	梶田 忠		所 属	熱帯生物圏研究センター	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員として博士課程学生1名の教育と学生支援を行う。 ・前職で指導にあっていた大学院生(博士課程2名)の指導を継続し、年度内の学位取得に向けて、現職の職務内で教育および研究支援を実施する。 ・IT技術(e-ラーニング等)を利用した教育指導を実施する。 ・西表研究施設への進学者増加を目指して、進学説明会、セミナー、勉強会など、学生向けの情報発信と新企画を実施する。 ・西表研究施設勤務教員主体の実習開催について検討を行う。 	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員として博士課程学生1名の教育と学生支援を行った。 ・前職で指導にあっていた大学院生(博士課程2名)の指導を継続し、現職の職務内で教育および研究支援を実施した。1名は年度内に学位取得・卒業することになった。 ・IT技術(e-ラーニング等)を利用した教育指導を継続実施した。 ・西表研究施設への進学者増加を目指して、主に学内外の学部学生を対象とする進学説明会3回、セミナー、勉強会など、学生向けの情報発信と新企画を実施した。 ・西表研究施設勤務教員主体の実習開催について検討を継続した。他大学の実習実施に協力した。 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までに取得していた複数の科学研究費補助金による共同研究体制を維持し、西表研究施設の利点を生かした研究体制を構築・維持する。 ・新規に取得した科学研究費補助金による国内外の共同研究者との共同研究体制を速やかに機能させ、共同研究を実施する。 ・熱帯生物学研究センターを拠点とするマングローブの国際研究ネットワーク形成と国際研究プロジェクトの実施に向けて、競争的資金獲得のための努力を継続する。 ・YList(植物和名一学名インデックスデータベース)の外部公開を継続し、情報取得のためのサービスを向上させる。 ・研究成果を論文、シンポジウム、学会発表を通して公開する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までに構築した、他機関の研究者との共同研究体制を維持し、共同研究を実施した。 ・新規に取得した科学研究費補助金による国内外の共同研究者との共同研究体制を、新たに構築した。キックオフミーティングと国際シンポジウムを開催し、共同研究を開始した。 ・熱帯生物学研究センターを拠点とするマングローブの国際研究ネットワーク形成と国際研究プロジェクトの実施に向けて、ネットワーク作りと競争的資金獲得のための努力を継続した。 ・YList(植物和名一学名インデックスデータベース)の外部公開を継続し、情報取得のためのサービスを向上を図った。 ・研究成果を投稿論文(3報)、シンポジウム(3件)、学会発表(8件)を通じて公開した。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回国際マメ科会議を熱生研主催で、H30年8月29-9月2日に仙台で開催することに向けて、実行委員長として準備を行う。 ・マングローブの遺伝的多様性保全のための国際研究ネットワークの代表として、研究ネットワークの維持に努める。 ・IUCNのMangrove Specialist Groupのメンバーとしての活動を行う。 ・西表島を含む地域の自然遺産登録に関する情報を収集・整理し、一般向けに提供する。 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回国際マメ科会議準備委員会実行委員長として、準備活動を行った。各種団体への開催補助金申請を行い、数団体から助成を得た。国際会議ホームページを管理し、登録受け付け等を実施した。 ・マングローブの遺伝的多様性保全ネットワークの代表としてネットワークの維持と研究活動を行った。 ・IUCNのMangrove Specialist Groupのメンバーとして、国際シンポジウムに参加・発表を行った。 ・西表島を含む地域の自然遺産登録に関する情報を収集・整理し、一般向けに提供した。また、地域連絡会に参加して、助言や提言を行った。 	
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯生物学研究センター西表研究施設の施設長として、センター長補佐及び研究施設の業務と整理を行う。 ・西表研究施設内の定例会議を統括し、施設運営に関する重要事項を協議・決定する。 ・西表研究施設内で電子媒体を用いた情報共有システムを構築・維持する。 ・西表研究施設の中長期的な運営方針や活動指針についての検討を行う。 ・西表勤務教員数減による教員の負担増に対応して、業務の整理と施設内委員の設置、担当者の割り振りについて検討を行う。 	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯生物学研究センター西表研究施設の施設長として、センター長補佐及び研究施設の業務と整理を行った。予算、人事、施設維持、補修など、様々な業務を担当した。モバイルルータによる施設内LANを構築した。 ・西表研究施設内の定例会議を統括して、施設運営に関する重要事項を協議・決定した。 ・西表研究施設内で電子媒体を用いた情報共有システムを構築・維持した。新任メンバー向けの情報を整理して提供した。 ・西表研究施設の中長期的な運営方針や活動指針についての検討を行った。 ・西表研究施設勤務の教員数1名減員による他教員の業務負担増に対応するために、業務の整理と役割分担を行い、担当者の割り振りについての検討を継続した。 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。